

衆議院議員 玉城デニー FAXニュース (12/9号)



◆ 中城湾港初入港セレモニーに参加 (定期船就航実証実験)

11月21日(月)中城湾新港地区西埠頭と鹿児島を結ぶ船舶定期航路の実証実験がいよいよ始まり、その初入港セレモニーに玉城デニーも参加いたしました。

これまで中断していた定期航路が新たな形でスタートすることは新港地区の140社余をはじめ、多くの関連産業関係者にとっても本当に首を長くして待っていたことと思います。

今回の定期航路実証実験でしっかりとした物流体制の連携が図られることで、物流効果への展望、コスト軽減への期待など、貴重な成果を得られると共に、今後、新港地区を中心とした中・北部のさらなる物流体制の構築へつながることが期待されています。

先月からは東埠頭の浚渫事業が始まり、いよいよ東西の埠頭を活用できる港湾体制の充実へと進んでいることも多くの県民が待ち望んでいたことでもあります。

セレモニーで挨拶に立った玉城デニーは「これからも国・県・沖縄市・うるま市の各関係機関ともしっかりと連動し、立地企業をはじめ関連各産業界の積極的な航路活用による経済的効果が得られるとともに、県が進めている次年度からの新しい振興計画へも確実に寄与することを大いに期待しつつ、今後の東アジアを視野に入れた港湾物流の拡大と展開に向けて、私も政権与党の強みを活かしながら国政の場でさらにしっかりと取り組んでいきます。」と力強く述べました。



<セレモニーでの挨拶>



<東門沖縄市長・島袋うるま市長と>

◆ 『県民負担の軽減に全力投球 (H24年度税制改正要望)』



<沖縄電力会長 要請訪問>

平成24年度税制改正に向け、連日大詰めの議論が交わされています。そのような中、沖縄電力より「発電用途の石炭及びLNG(液体天然ガス)に係る石油石炭税の免税」についての要請が12月1日に民主党本部(城島幹事長代理)、12月6日には民主党税制調査会(古本事務局長)に対して行われました。

電力そのものを他の電力会社と相互融通が出来ない我が沖縄県(沖縄電力)では、常にある程度の余裕を持った発電が不可欠であり、そのための燃料となる石炭・LNGへの課税は、直接電力使用料金の値上げに直結し、県民の負担増大へつながる重要な問題です。

来年3月末日をもって時間切れとなるこの免税措置を継続することが今回の要請内容でしたが、『県民の生活が第一。』の政策実現のため、さらに必要な税制等の軽減対策に関しても、玉城デニーは全力で民主党および政府に働きかけをして参ります。

配信停止やご意見などございましたら、ご連絡をお願いいたします。

平成23年12月9日発行：民主党沖縄県第3区総支部(玉城デニー事務所)

TEL.098-929-2416 FAX.098-929-2005